

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立さかえ小学校

【取組内容⑤】各種メディア・企業・市教育委員会・県教育委員会と連動した、実践内容の地域内外への普及

概要

連携してきた**企業**や**TV・新聞**等の各種メディアに対して積極的に**情報提供**を行うとともに、市教委や県教委の研修と**本校の実践発表**を兼ねる等の工夫を行い、実践内容を地域内外に普及させる。

ねらい

これまで実践内容を紹介する手段としては、学校だより・市広報誌・自校HPといった、極めて限定的な媒体によるものが多かった。
社会の動向に合わせて、多様な普及方法を模索し、実行に移していくことがねらいである。

成果

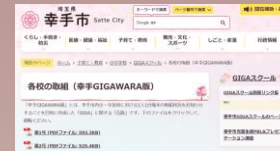
右記「After」に記載のとおり、各種メディア・企業・市及び県教育委員会と連動したことで、情報発信の質的・量的な充実が図られた。積極的発信が学校外と新たな繋がりを生むとともに、学校の協力・支援者となり、より学びを深めることに気付いた。
児童達も、自分たちの学びの様子が広く発信されることで、自己肯定感や有用感を高めることにつながった。

Before



限定した公開
実践が広がりにくい

After



市のサイトで
実践を周知・
啓発



企業HPに取組を掲載



課題・展望

県内にとどまらず、全国規模の発信が課題である。
今後は幸手市が運営する情報活用サイトはもとより、各種SNSにリーディングDXの取組の掲載を検討していく方向である。
児童が発信方法を含めて考えるPBLの更なる推進も視野に入れていきたい。



Point!

市や県の教育委員会との連携を密にし、迅速な情報提供と事業についてのこまめなミーティングを実施。



県の事業として
講演会や授業を
広く発信

オンライン開催
で問口を広く